

さんむのふるさと散歩

NO.47

無形民俗文化財神楽

山武市には無形民俗文化財である神楽が6団体活動しております。

この神楽は、各地域に根づいた民衆の郷土芸能で、神社の祭礼時に神楽が奉納されています。

神楽はもともと宮廷で行われた神楽の舞で宮廷神楽と言われます。平安時代前期（貞観時代）『古語拾遺』には神楽について書かれています。江戸時代中ごろになると民衆の神楽として発生し、里神楽・代々神楽として民衆に浸透しました。今回は松尾地区に伝承されています。松尾地区では現在4団体が活動して継承保存に努力をしています。

『末広神社の神楽』

末広神社は、寛政元年（1789）



じんだいしゅ ばんそつ
神代酒の番卒
松尾神楽保存会



田の神
琴平神楽保存会

に京都の仙洞御所で太田資愛が下賜された末広（扇）を石櫃に納めて建立したのが創建とされています。祭神は軻邁馳智命で、大田道灌公と稻倉魂命を共に祀っています。現在の末広神社は、明治2年掛川藩主太田資美が転封された時にこの地に移し遷宮したものです。

神楽が初めて披露されたのは、明治14年7月に神楽の奉納が行われました。神楽は11座からなり、江戸の深川で習得した「江戸の里神楽」です。能面、おかめ、ヒヨットコの面を付けパントマイムのように指先や手足を使い表現したものです。踊る様子がとても面白いものとなっています。現在は、7月26日の近い土曜日に神楽が奉納されています。

『金刀比羅神社の神楽』

金刀比羅神社は、松尾町八田字東

雲に鎮座しています。

後醍醐天皇の時に讃岐国金刀比羅大神を奉還遷所されたと言われます。その後横芝光町に所在する酒田城主井田因幡守友胤が当神社を信仰されました。この神社での神楽の発生は、寛文5年（1665）に本殿が再建されたのを記念して神楽が奉納されたものです。

神楽は、12舞6曲からなり、農作業の安全と五穀豊穡を、また氏子の安全を祈願して2百10日の鎮風祭に当たる9月1日に行われてきました。現在は、8月の第一日曜日に奉納されています。

『稻荷神社の神楽』

稻荷神社は、本柏字新田に鎮座し、伝承によると大同2年（807）の創建とされています。この社は穀物の神、稻倉稲魂命を祭神として祀っています。



田うないの舞
本柏神楽保存会

明治31年に火災に遭遇しましたがその後再建し、明治35・36年に神楽

が奉納されました。昭和になり38年から51年の14年間は中断となりました。その後、保存会の結成により現在に至っています。

神楽は、代々神楽とも言う民衆の神楽として継承されたものです。12舞からなり、氏子の安全と五穀豊穡を祈願して現在は3月の第2土曜日の初午祭に神楽が奉納されています。

『大宮神社の神楽』

大宮神社は、折戸字宮に鎮座し、伝承によると大同2年（807）の創建と伝えられています。



すさのうのみこと
素菱鳴命
折戸神楽保存会

祭神は、大山昨命・大己貴命・少彦名命・葦島姫命が祀られています。神楽は12座の舞からなり、代々神楽（福田流）で呼ばれています。また、氏子の範囲が広く成東地区や蓮沼地区の一部からも氏子をかかえています。氏子の安全と五穀豊穡など祈願して毎年4月第1日曜日に神楽が奉納されています。

生涯学習課

☎(80)1451